



Title	学期制の現状と移行の課題 : 4学期制研究会報告
Author(s)	細川, 敏幸; 西森, 敏之; 山田, 邦雅 他
Citation	高等教育ジャーナル : 高等教育と生涯学習, 19, 53-64
Issue Date	2012-03
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.19.53
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/56805
Type	departmental bulletin paper
File Information	No1906.pdf



A Study on School Terms in Higher Education

Toshiyuki Hosokawa,^{1)*} Kunimasa Yamada,¹⁾ Toshiyuki Nishimori¹⁾ and Atsushi Ando²⁾

1) Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

2) Professor Emeritus, Hokkaido University

学期制の現状と移行の課題

— 4 学期制研究会報告 —

細川 敏幸^{1)**}, 西森 敏之¹⁾, 山田 邦雅¹⁾, 安藤 厚²⁾

1) 北海道大学高等教育推進機構,

2) 北海道大学名誉教授

Abstract — Most Japanese universities run under the semester system. Some of them, and many other universities in other countries, employ trimester and quarter systems. In this study we collected data about school terms from universities in Japan, Canada, the U.S.A. and England. As the next step, we made models of students in science and literature courses. Then we changed the school term from semesters to trimesters and quarters. In this context, we studied the circumstances for students who wanted to go abroad for a short period. If a student is absent for one quarter to go to abroad, it may be difficult to obtain a full year's credits in the remaining three quarters. This demonstrates the importance of not only the school system but also the total supporting system, including credit transfer for students.

(Received on 20 February, 2012)

*) Correspondence: Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, Japan

**) 連絡先: 060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学高等教育推進機構

1. はじめに

北海道大学は現在2学期制を採用し、4月から8月までの1学期と10月から翌年2月までの2学期で教育を実施している。一方、米国などでは3,4学期制もあり、本学が4学期制に移行する可能性については、過去にも議論されている(1997 徳永)。徳永の報告では4学期制の利点を次のようにまとめている。

- (1) 週2回学習することで効果の上がる科目がある。
- (2) 教員の教育と研究の期間を分離できる。

一方で、①非常勤講師に週2回依頼できるか不明。②夏休みの開始が遅くなる。などの問題点が指摘されている。しかし、当時に比べて非常勤講師数は半減しており、①は解消できる可能性が高い。②についても、現行の2学期制を7月中に終了させる試みをしており、解消できる。

本研究会では、国内外の現状を調査した後、モデル学生を設定して実際に異なる学期制に移行した場合に生じる課題を検討した。その観点は、留学の促進と教育の効率化に有益であることである。

2. 日本国内の状況

日本のほとんどの大学は2学期制を採用しているので、それ以外の大学を調べた。以下の記述は各大学の履修要項、ホームページを参考にしている(学則とホームページの記述が異なる場合もある)。

(1) 3学期制

ICU (国際基督教大学)

- 1 学期：4～8月、
- 2 学期：9～11月、
- 3 学期：12～3月。

ICUでは学則では別の書き方になっているが、1学期11週分、1時限70分の講義科目で授業以外の予習・復習2時限分を1単位と数える。大半の科目が2単位、3単位である。3単位の科目では、週に

3時限の授業がある。講義は1日に6時限が設定されている。8時50分～17時20分まで、休憩は10分。昼休みは12時40分～13時30分までの50分。科目選択の機会は4年間で12回。なお1学期に履修できる単位数は13単位(体育実技を履修する場合は13+1/3単位)である。ただし、アドヴァイザーの許可があれば、18単位までの履修登録が認められる。

ホームページでは3学期制の利点として、短期集中型で、年間を通しての履修科目数が多く、関心の変化と程度に応じてダイナミックに学べること。また海外への留学や9月生受け入れも円滑に行なわれることをあげている。

筑波大学

- 1 学期：4～7月、
- 2 学期：8～11月、
- 3 学期：12～3月。

筑波大学では1学期10週分、1時限75分の授業を1.5時間として計算し、15時間を1単位としている。実験実習実技は毎週3時間を10週実施している。ただし、外国語は30時間で、体育は45時間で1単位としている。

講義は8時40分～6時までを6時限に分けており休憩は15分、昼休みは50分(11:25～12:15)である。

1,2年目の数学類では1単位科目と2単位科目があり、2単位科目は2コマを続けて使う場合(150分)と1コマを2学期にわたって開講する場合がある。一方、物理学類では、2単位科目の場合曜日を変えて2コマを開講しているものがある。結局、初年次教育全体から見れば、教育の目的や効果にあわせて、可能な組み合わせはすべて実行されているようである。

3学期制は学生、教員双方から不満があることがいくつかのホームページから推測される。不満点の多くは、他大学と長期休暇の期間が異なることに起因している。つまり、学生は他大学の学生と一緒にスポーツ大会や趣味の集会などに参加できないこと、教員は学会に参加しにくいことを、このシステムの欠点としてあげている。そのためか、筑波大学は二年後を目処に2学期制に移行する予定である。

(2) 4 学期制

高知工科大学

- 1 学期：4～6 月，
- 2 学期：6～8 月，
- 3 学期：10～11 月，
- 4 学期：12～2 月。

講義は 90 分で 9 時から 6 時までの 5 時限。休憩は 10 分，昼休みは 12:10～13:10 の 1 時間である。履修登録期間は年 1 回（4 月に 1 年間分の履修を登録），変更期間は年 3 回，2 クォーターと 3 クォーターと 4 クォーターの始めに行う。1 年間に履修できる科目は，48 単位以内となっている。

教員は 162 名で，学生数は 1 学年が，システム工学群 170 名，環境理工学群 90 名，情報学群 100 名，マネジメント学部 100 名で，合計 460 名である。

4 学期制の利点は，『短期間で集中して学べるので，厳しいけれどメキメキ実力がつくカリキュラム』だとしている。

ものづくり大学

- 1 学期：4～6 月，
- 2 学期：6～8 月，
- 3 学期：9～11 月，
- 4 学期：11～2 月。

ホームページによれば，『授業の目的を見失うことなく，効率的に成果を得られるよう，4 学期制を採用している。4 学期制は履修機会の増大，休講の減少，出席率の増大，授業料分割納入の適用，クォータ卒業，科目等履修生の利便性などの利点を持っている。』

教員は 44 名で，学生数は 1 学年が製造技能工芸学科 180 名，建設技能工芸学科 180 名の合計 360 名である。

講義・演習は 1 単位 15 時間。90 分を一コマとして毎日 4 講目まで開講する。9 時 20 分から 16 時 30 分まで，休憩は 10 分，昼休みは 12:30～13:20 の 50 分である。

両大学とも，この制度を利用した留学生の送り出しは行っていないようである。

大学院に限れば以下の大学がすでに実施している (Wiki から引用)。

- ・ 産業技術大学院大学
- ・ 会津大学大学院
- ・ 東京工科大学大学院

本学でも，獣医学部，理学部，工学部，医学部，歯学部，地球環境科学研究科などが一部に導入している。

これらの調査からうかがえることは，4 学期制度は集中して学習することで成果の上がる，理系の応用的な科目に適用されていることである。4 学期制導入の狙いである，教員の学期サバティカルと学生の短期留学については，積極的な利用はないようだ。

3. 外国の状況

次にカナダ，米国，英国の概要を順にまとめる。国単位で概観した後，過去に我々が調査に訪れた大学の制度を参照する。ただし，カリフォルニア州立大学イーストベイ校には訪れた経験がない。2010-2011 年度のカリキュラムを参照した。学部の時間割を詳しく見るために特定の学科（主に化学）のカリキュラムを記述することがある。

3.1 アメリカ合衆国

アメリカでは，2，3，4 学期制がある。多くの大学の制度はサマーセッションを学期数に含むので，日本の 2 学期制か 3 学期制に相当するものがほとんどである。

2 学期制：秋学期 [Fall Semester] と春学期 [Spring Semester] が主な学期で，夏には短期集中コース [Summer Session] がある大学も多くある。大学によって多少異なるが，秋学期は 8 月～12 月，春学期は 1 月～5 月，夏の短期集中コースは 5 月～7 月にある。

3 学期制：秋学期 [Fall Trimester] が 9 月～11 月，冬学期 [Winter Trimester] が 12 月～2 月，春学期 [Spring Trimester] が 3 月～5 月にある。

4 学期制：秋学期 [Fall Quarter] が 9 月から 12 月，冬学期 [Winter Quarter] が 1 月から 3 月，春学期 [Spring Quarter] が 3 月から 6 月，夏学期 [Spring Quarter] が 6 月から 9 月にある。

(1) 3学期制

UC バークリー

各学期の期間は以下になる。

秋学期：8月19日～12月17日，春学期：1月11日～5月13日，夏学期：5月23日～8月12日(6週，10週，8週，3週のセッションが平行して開講される。) 1週間の試験期間を最後に含む。夏学期は集中講義なので，実質2学期制である。

化学科の講義は9:00～10:00，以降昼休みなしに60分の講義が17:00まで。他に7:00～9:00，9:30～11:00，17:30～19:00などの時間割もある。時間の使い方は多様で，週2回180分3単位，週2回2時間4単位(多分演習とペア)，週3回3時間3単位などがある。時間割は休憩なく詰め込まれているが，実際には前の科目が10分ぐらい早く終わることを不文律にしている。

(2) 4学期制

スタンフォード大学

各学期の期間は以下になる。

秋学期：9月20日～12月10日，冬学期：1月3日～3月18日，春学期：3月28日～6月8日，夏学期：6月20日～8月13日。1週間の試験期間を最後に含む。夏学期は期間が短く試験日も2日だけで，集中講義的に運用されている。実質3学期制である。

化学科の時間割は統一されていない。例えば，朝から各授業を追っていくと，午前8:30～9:45，9:00～9:50，10:00～10:50，11:00～11:50，11:00～12:15，11:00～12:30，午後13:15～14:05，14:15～16:00，18:00～19:30，19:00～20:00など多様。週1回105分で3単位(多分演習とペア)，週3回190分で4単位，週2回150分で3単位，週3回225分で3単位など単位数も多様。卒業には180単位必要である。

カリフォルニア州立大学イーストベイ校

完全な4学期制の例である。(この大学は調査に行ったわけではなく，4学期制を実施しているという理由で抽出した。)

秋学期：9月22日～10月12日，冬学期：1月3日～3月20日，春学期：3月28日～6月12日，夏学期：6月20日～9月4日。11週で1学期，1週間の試験期間を最後に含む。

化学科の卒業には180単位必要。2学期制の1単位は4学期制の1.5単位に相当する。4学期制の1単位は2学期制の3分の2単位に相当する。

化学科の時間割は統一されていない。例えば，朝から各授業を追っていくと，8:00～9:10，9:20～10:30，10:00～11:15，10:00～11:50，12:00～12:50，12:10～13:00，12:35～13:50，13:20～14:10，14:00～15:50，14:40～15:55など多様。週2回220分で4単位，週3回150分で5単位(実験とペア)，週3回210分で4単位，週2回150分で3単位など，単位数も多様。

イーストベイ校の例では1週間に4時間と考えても $4 \times 8 = 32$ 時間で4単位としている。つまり，1単位が通常の単位の半分ぐらいの価値しかない。このため，卒業単位数を120単位ではなく，180単位としている。

両校とも時間割が統一されていないことから，時間を柔軟に運用することで1学期にうまくカリキュラムを配置しているようである。週2，3回の講義と実験を組み合わせている。これは，カリキュラムの設計の観点からは，複雑な仕組みにならざるを得ないことを示している。

(3) その他

* 上記以外で調査に訪れたことがある大学の学期制を，以下に列挙する。

インディアナ大学.....	2学期 + 夏学期
ポートランド州立大学.....	3学期 + 夏学期
マサチューセッツ大学.....	3学期 + 夏学期
マサチューセッツ工科大学.....	2学期 + 夏学期
ハーバード大学.....	2学期 + 夏学期
ミシガン大学.....	3学期 + 夏学期
マイアミ大学.....	2学期 + 夏学期
オハイオ州立大学.....	3学期 + 夏学期

3.2 カナダ

カナダの大学の学期制は，米国同様，2，3，4学期制に分けられる。9月頃から始まる。

2 学期制は、セメスター制と呼ばれる。一般に、一学期目は 9 月初め前後～12 月末まで、二学期目は 1 月から始まり 4～5 月頃まで続く。大学によっては、一学期が 8 月半から始まることもある。卒業単位は 120 単位程度。

3 学期制は、9 月～12 月、1 月～3 月、4 月～6 月のように、セメスター制に春学期が加わる。一学期が約 2 カ月半から 3 カ月と 2 学期制より多少短く、卒業単位数は 180 単位程度。

4 学期制は、3 学期制にさらにサマーコースが付いたものである。このサマーコースをさらに二つに分け、合計で 5 学期制になっているところもある。

日本の学期制にはサマーコースは含まれないので、多くの大学の制度は 2 学期制か 3 学期制に相当するものである。

ダルハウジー大学

秋学期：9 月 8 日～12 月 20 日、冬学期：1 月 4 日～5 月 23 日、

夏学期：5 月 7 日～8 月 17 日（6 週、3 週、12 週、7 週、4 週のセッションが平行して開講される。）11 日間の試験期間を最後に含む。夏学期は集中講義なので、実質 2 学期制。

授業時間は、実験、講義、演習で異なりフレキシブルな運用をしている。参考までに化学科の講義は次のように行われる。50 分の講義は週に 3 回開講され、3 単位。80 分の講義は週に 2 回開講され 3 単位。
08:35～09:25, 09:35～10:25, 10:35～11:25, 11:35～12:25, 13:35～14:25, 14:35～15:25, 15:35～16:55

3.3 英国

英国も秋から新学期が始まる。大学では 10 月初めに、カレッジでは 9 月半ばにコースが始まるころがほとんどである。

ケンブリッジ大学（3 学期制）

ケンブリッジ大学では 10 月に新学期が始まる。英国のほとんどの大学では 9 月に始まる。

ケンブリッジ大学は 3 学期制で、10 月～12 月 [Michaelmas term], 1 月～3 月 [Lent term], 4 月～6 月 [Easter term] に分かれる。それぞれの term (学

期) は 8 週。ただし、8 週で 1 term はオックスブリッジだけで、英国の他の大学は 10～12 週で 1 term というところが多い。Easter term では“Production”（総合演習あるいは実習のようなもの）が中心で、講義はない。

講義時間は 1 コマにつき 1 時間。時間割は 9:00-10:00, 10:00-11:00, 11:00-12:00, 12:00-13:00, 14:00-15:00, 15:00-16:00, 16:00-17:00, 17:00-17:00 である。

同じ講義が週に 2 回開講されるので、1 term の一つの科目の講義時間は、16 時間。試験は年に 1 回で、5 月に、卒業式は 6 月下旬に行われる。

4. 2 学期制から 4 学期制、3 学期制への移行を考える

それでは、現状の 2 学期制から 4 学期制、3 学期制への移行の実際を考えてみる。すべてのカリキュラムを再構成するのではなく、学生側から考えることで簡略化して移行を検討する。

4.1 現状の 2 学期制でモデル学生を作成

現在、本学 1 年生の 1 学期は 16 週、1 週は 5 日、1 日は 90 分×5 コマで構成される。つまり 1 学期は 400 コマで成立している。

4 学期制に移行するために、もっとも単純な方法を採用する。すなわち、単純に半分にする。1 学期は 8 週、1 週は 5 日、1 日は 90 分×5 コマ、つまり 1 学期 200 コマとする。ただし時間が半分なので、科目数も半分にする。

全体のカリキュラムを移行して考えるのは大きな労力を要するので、まずこのアイデアを学生の立場から見て可能かどうか、2 学期制における標準的なモデル学生をつくらせて検討してみる。現在のカリキュラムでの、1 組の学生 (文系)、16 組の学生 (理系) を対象とする。履修する科目数は上限設定範囲内 (文系 21 単位、理系 23 単位) のほぼ最大とした。

a) 文系学生（上限 21 単位）1 組（表 1）

1 学期 21 単位を以下のように配分する。

表 1. 現行 2 学期制で文系学生の例

文系1学期					
	月	火	水	木	金
1		歴史の視座			
2	ドイツ語 I	英語 II		ドイツ語 I	統計学
3		情報学 I	ドイツ語演習		体育学A
4			人文社会科学の基礎		英語 I
5	思索と言語	環境と人間	健康と社会	一般教育演習	

文系2学期					
	月	火	水	木	金
1		思索と言語		科学技術の世界	
2	ドイツ語 II		英語演習		
3					英語IV
4	英語 III	人文社会科学の基礎	ドイツ語演習	ドイツ語 II	
5	社会の認識		一般教育演習	芸術と文学	

一般教育演習（2単位 I コマ）、環境と人間（1単位 I コマ）、健康と社会（1単位 I コマ）、思索と言語（2単位 I コマ）、歴史の視座（2単位 I コマ）、英語 I（1単位 I コマ）、英語 II（1単位 I コマ）、ドイツ語 I（2単位 2 コマ）、ドイツ語演習（2単位 I コマ）、体育学 A（1単位 I コマ）、情報学 I（2単位 I コマ）、統計学（2単位 I コマ）、人文社会科学の基礎（2単位 I コマ）

以上で、13 科目、14 コマ、21 単位となる。

4 学期制に移行する際に考慮すべき本学コアカリキュラムの特徴は、1) 語学の講義は週 2 回、2) 体育は週 1 回、3) 情報学 I は 1 学期に必修、4) 一般教育演習は導入科目なので 1 学期がのぞましい点である。

4 学期制に移すには、2 単位科目は週 2 コマ、英語、ドイツ語は 4 コマ必要になる。

2 学期 20 単位を以下のように配分する。

一般教育演習（2単位 I コマ）、社会の認識（2

単位 I コマ）、科学技術の世界（2単位 I コマ）、思索と言語（2単位 I コマ）、芸術と文学（2単位 I コマ）、英語 III（1単位 I コマ）、英語 IV（1単位 I コマ）、英語演習（2単位 I コマ）、ドイツ語 II（2単位 2 コマ）、ドイツ語演習（2単位 I コマ）、人文社会科学の基礎（2単位 I コマ）。以上で 11 科目、12 コマ、20 単位となる。

b) 理系学生（上限 23 単位）16 組（表 2）

1 学期 23 単位を以下のように配分する。

一般教育演習（2単位 I コマ）、環境と人間（1単位 I コマ）、思索と言語（2単位 I コマ）、歴史の視座（2単位 I コマ）、英語 I（1単位 I コマ）、英語 II（1単位 I コマ）、ドイツ語 I（2単位 2 コマ）、体育学 A（1単位 I コマ）、情報学 I（2単位 I コマ）、線形代数学 I（2単位 I コマ）、微積分学 I（2単位 I コマ）、物理学 I（2単位 I コマ）、化学 I（2単

表 2. 現行 2 学期制で理系学生の例

	理系1学期				
	月	火	水	木	金
1	体育学A		化学 I	歴史の視座	
2			物理学 I		線形代数学 I
3	微積分学 I		英語 I	情報学 I	ドイツ語 I
4		ドイツ語 I	自然科学実験	英語 II	
5	思索と言語	環境と人間	自然科学実験	一般教育演習	

	理系2学期				
	月	火	水	木	金
1		芸術と文学			化学 II
2		英語演習	物理学 II		英語 III
3	英語 IV	線形代数学 II	微積分学 II		
4		ドイツ語 II	情報学 II		ドイツ語 II
5	社会の認識		健康と社会	一般教育演習	

位 I コマ), 自然科学実験 (1 単位 I コマ)。以上で 14 科目, 15 コマ, 23 単位となる。

2 学期 23 単位を以下のように配分する。

一般教育演習 (2 単位 I コマ), 健康と社会 (1 単位 I コマ), 社会の認識 (2 単位 I コマ), 芸術と文学 (2 単位 I コマ), 英語 III (1 単位 I コマ), 英語 IV (1 単位 I コマ), 英語演習 (2 単位 2 コマ), ドイツ語 II (2 単位 2 コマ), 情報学 II (2 単位 I コマ), 線形代数学 II (2 単位 I コマ), 微積分学 II (2 単位 I コマ), 物理学 II (2 単位 I コマ), 化学 II (2 単位 I コマ)。以上で 13 科目, 14 コマ, 23 単位となる。

4.2 4 学期制への移行

次に, このモデル学生の受講を 4 学期制に移してみる。上記「学習の特徴」から, 英語, ドイツ語は現行と同様に週 2 回とする。文系モデルは次のよう

になる。

a) 文系モデル (表 3)

科目数は上から順に 14, 14, 12, 12 である。2 学期制で 24 科目であったものが, 26 科目相当に増加する。

一方, 理系モデルは次のようになる。

b) 理系モデル (表 4)

科目数は順に 17, 15, 15, 13 である。2 学期制で 30 科目であったが, 4 学期制にしても科目数は 30 科目相当で変わらない。

試験週間を 1 週間加えると, 第 2 学期終了が 8 月に食い込むことが考えられる。

4.3 2 学期を受講しない場合

さらに, 2 学期を受講しない場合, 3, 4 学期でそ

表 3. 4 学期制移行で、文系学生の例

	1学期				
	月	火	水	木	金
1		統計学			
2	ドイツ語 I	英語 I		ドイツ語 I	統計学
3		情報学 I	ドイツ語演習		体育学A
4			情報学 I		英語 I
5	一般教育演習	環境と人間	環境と人間	一般教育演習	
	2学期				
	月	火	水	木	金
1		歴史の視座			
2	ドイツ語 I	英語 II		ドイツ語 I	歴史の視座
3		人文社会科学の基礎	ドイツ語演習		体育学A
4			人文社会科学の基礎		英語 II
5	思索と言語	健康と社会	健康と社会	思索と言語	
	3学期				
	月	火	水	木	金
1		思索と言語		思索と言語	
2	ドイツ語 II		英語演習		
3					英語IV
4	英語Ⅲ	芸術と文学	ドイツ語演習	ドイツ語 II	
5	一般教育演習		一般教育演習	芸術と文学	
	4学期				
	月	火	水	木	金
1		科学技術の世界		科学技術の世界	
2	ドイツ語 II		英語演習		
3					英語IV
4	英語Ⅲ	人文社会科学の基礎	ドイツ語演習	ドイツ語 II	
5	社会の認識		社会の認識	人文社会科学の基礎	

表 4. 4 学期制移行で、理系学生の例

	1学期				
	月	火	水	木	金
1	体育学A		線形代数学 I	微積分学 I	
2			物理学 I		線形代数学 I
3	微積分学 I		英語 I	情報学 I	ドイツ語 I
4		ドイツ語 I	自然科学実験	英語 II	物理学 I
5	情報学 I	情報学 I	自然科学実験	一般教育演習	
	2学期				
	月	火	水	木	金
1	体育学A		化学 I	歴史の視座	
2					化学 I
3	歴史の視座		英語 I	思索と言語	ドイツ語 I
4		ドイツ語 I	自然科学実験	英語 II	
5	思索と言語	環境と人間	自然科学実験	環境と人間	
	3学期				
	月	火	水	木	金
1		一般教育演習			物理学 II
2		英語演習	物理学 II		英語 III
3	英語 IV	線形代数学 II	微積分学 II		
4	物理学 II	ドイツ語 II	情報学 II		ドイツ語 II
5	情報学 II		線形代数学 II	一般教育演習	
	4学期				
	月	火	水	木	金
1		芸術と文学			化学 II
2		英語演習	芸術と文学		英語 III
3	英語 IV	健康と社会	化学 II		
4		ドイツ語 II			ドイツ語 II
5	社会の認識		健康と社会	社会の認識	

れが吸収できるか否か、検討する。米国のサマーコースを念頭に置いた短期留学プログラムでは、6月～9月の4ヶ月が使えることが望ましいからである。1学期目はそのままにして、3、4学期で2学期分の学習を吸収する。原則として1コマ科目をなるべく3学期に等しく配置して、段階的な学習に配慮する。それ以外の配慮はせずに、空いている時間帯に入れた。

文系モデルでは科目数は上から順に14, 20, 18である。2学期制で1学期あたり最高14科目であったものが、3学期には20科目相当に増加する。

理系モデルでは理系では学びの順序を考慮して、配置していった。科目数は1学期から順に17, 23, 19である。2学期制で1学期あたり最高16科目であったものが、3学期には24科目相当に増加する。3学期と4学期を平準化しても21科目程度の履修が必要になる。実際のカリキュラムを考えると、このような配置はできないであろう。その上、1週25コマしかないところで、21コマも履修することは、上限設定による単位の実質化に逆行することになる。

4.4 2学期を受講しない場合に留学時取得単位を振り替える

ここで、10単位5科目程度の留学時取得単位を振り替える仕組みがあれば、単位の修得は容易になる。

a) 文系モデル

英語Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, 科学技術の世界, 思索と言語を振り替えたものとして、3学期, 4学期を受講すると次のようになる。各学期とも14コマで、他の学生同様にゆったりと勉強できる。

b) 理系モデル

英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, 社会の認識, 芸術と文学を振り替えたものとして、3学期, 4学期を受講すると次のようになる。各学期15コマと17コマで、文系よりは多いが履修できない多さではない。

4.5 3学期制への移行 (1コマ70分)

現行2学期制では、90分×15回=1350分(22.5時間)で2単位としている。ここではICUにならい、70分×22回=1540分(25.7時間)で2単位とする。この場合、2単位科目では4学期制同様週2回が原則となる。

2学期制では1学期は16週、1週は5日、1日は90分×5コマつまり400コマで成立している。この3学期制では、1学期は12週、1週は5日、1日は70分×6コマつまり360コマで成立することになる。

語学は毎学期履修するよう配慮する。そのため、ドイツ語Ⅰ(2単位2コマ)、ドイツ語Ⅱ(2単位2コマ)は、ドイツ語Ⅰ(1単位2コマ)、ドイツ語Ⅱ(1単位2コマ)、ドイツ語Ⅲ(1単位2コマ)とする。また、ドイツ語演習、英語演習(1単位1コマ)を付加し、なるべく毎学期実施する。体育は1単位1コマだが2学期まで継続した。文系学生モデルでは1年で50コマ29科目44単位となる。理系学生モデルでは58コマ30科目55単位となる。

a) 文系モデル

コマ数は順に17, 17, 16で、50コマ。2学期制で24科目であったものが、29科目相当に増加する。入学時が4月の第2週になり、講義に11週必要なので、試験週間1週間を考慮すると、1学期が終了するのは7月第1週となる。

b) 理系モデル

コマ数は順に19, 20, 19で、58コマ。週30コマのうちの67%が講義であり、2学期制の場合の60%と大きくは変わらない。2学期制で24科目であったものが、30科目相当に増加する。この場合も移行に問題はなさそうである。

5. まとめ

5.1 移行に関して

単に4学期制、3学期制へ移行するだけなら、容易に行えそうなのがわかった。しかし、学生を留学させるために、この制度を採用するには問題がある。4学期制として、2学期目を留学に使おうとす

れば、3 学期目に 20 コマ (文系) から 24 コマ (理系) を取る必要があり、カリキュラム設計上不可能だけでなく、単位の上限設定による単位の実質化の方針に反することになる。これを解消するには 5 科目 10 単位程度の留学時取得単位の認定が必要である。

5.2 世界と日本の中で

日本国内の動向からは、3 学期制は適切ではないことがうかがわれる。他の大学と休みの期間が同期しないからである。4 学期制を導入している大学の目的は、教育効果をねらったことで、理系の単科大学か大学院で、応用色が強い教育に有効なようである。一方で、この制度を教員のサバティカルや学生の留学には利用していないようである。

世界の動向をみると、4 学期制は少なくなり 2, 3 学期制に移行する方向にあるようである。短期集中で効果の上がる語学や理系の応用的な科目がある一方で、長い期間が欲しい体育や、数学、物理学などの基礎系の科目、できれば 1 年にも延長したい文系の科目があるからであろう。教育理論から考えると、両方あることが望ましい。つまり教育上の必要性から教育期間が決まることが理想である。

具体的に今の状況を考えて、2 学期制の中に集中的な科目を取り入れるか、4 学期制の中に長期的な科目を取り込む (擬似的 4 学期制) かである。カリキュラムの具体化を考えると、前者の方が容易で、実際にそれが本学の理系大学院で起きていることである。このような布石もあり、大学院で擬似的な 4 学期制を経験された理系の先生は、学部への導入にそれほど抵抗はないと思われる。

また、米国もカナダも英国も週 2～3 回の講義が普通に行われているところが、週 1 回の日本とは異なる。この点は、考慮すべきかもしれない。科目によっては、この方法が有効かもしれないからである。さらには、学期制検討の機会に、特に文系で多い 1 年間続く講義が学部教育で本当に必要かどうかを検討すべきであろう。

結局の所、ある科目をいかなる期間で学習するかは、科目の内容に依るのであって学期制には依存しないことを認識する必要がある。4 ヶ月で教えることが適切な科目と、2 ヶ月で教えることが適切な科目は、学期制に関係なく区別しカリキュラムに組み

込むべきである。

5.3 留学の促進について

留学への対応を考えると、1 学年全体の一割に留学してもらおうとしても、240 名程度であり全体から見るとまだ小さな割合である。このためだけに 4 学期制に移行することは、難しいと思われる。むしろ、派遣留学生増大の方策を学期制とは別に考えた方が効果的であろう。

その方策としては、単一の制度導入ではなく、「多様なサービスの展開」をはかるほうが有効に機能するように思える。現在の 2 学期制のままで受け入れてくれる仕組みを作れば、学生側から見て楽に参加できる。つまり、日本の休暇に合わせてくれる受け入れ大学を探すか、創設することである。龍谷大学は、バークリーでそのような体制を創設して (BIE Program) 毎年留学生を送り込んでいる。

全学教育で考えられるもう一つの方策は、「留学希望者だけのコースを作る」ことである。1 年生の夏休みに留学したいという強い動機を持つ学生はそんなに多くないはずである。このコースだけは 4 学期制として、第 2 学期は講義を受けなくともよいとする。すなわち、実質 3 学期で 1 年目の単位数が取得できるコースを作る。問題は 2 年目以上の対策であるが、学生数が少ない学部は 4 学期制を検討してもらう必要がある。他方、学生数の多い学部は全学教育を参考にして留学希望者コースを設定することができる。3 年目、4 年目は学科単位の小グループに学生が別れるので 4 学期制が必要であろう。

5.4 秋入学との組み合わせ

秋入学と 4 学期制が同時に導入されると、条件は変わってくる。1～3 学期で一年間の必要単位を平均して受講し、4 学期目を留学に使うことができるようになるからである。この場合も、留学希望者のコースを設けることが必要であるが、移行に必要な単位数や成績の問題を留学前にクリアすることが可能になるから、2 学期目を休みとするより制度的にも精神的にも容易である。

参考文献

徳永正晴, リメディアル教育, 4 学期制導入の問題
点—非常勤講師と夏休みの区切り—E 部会報
告, (高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学
習— 2, 35-38, 1997)

各大学のホームページとともに以下のページも参
照した。

[http://arx.ee.utsunomiya-u.ac.jp/adachi/
cambridge/cambridge20.html](http://arx.ee.utsunomiya-u.ac.jp/adachi/cambridge/cambridge20.html)

[http:// カナダ留学 .jp/](http://カナダ留学.jp/)

[http://www.geocities.ws/go2america/index-2.
html](http://www.geocities.ws/go2america/index-2.html)

[http://www.ispt.co.jp/program/university/u_uk/
index.html](http://www.ispt.co.jp/program/university/u_uk/index.html)